

## 36 番の歌 心を守る

## イスラエルの王たちから学べること

「あなたたちは再び、正しい人と悪い人、神に仕える人と仕えない人の違いを目にすることになる」。マラキ 3:18

ポイント：エホバがイスラエルの王たちのどんなところに注目していたかを学ぶと、エホバが今ご自分に仕える人たちに何を望んでいるかが分かります。

1-2. イスラエルの王たちについて聖書にはどんなことが書かれていますか。

聖書にはイスラエルを治めた王が 40 人以上出てきます。<sup>\*</sup>この記事で「イスラエルの王」という表現は、エホバの民を治めた全ての王を指して使われています。それにはユダの 2 部族を治めた王も、イスラエルの 10 部族を治めた王も、12 部族全てを治めた王も含まれます。そうした王たちが行ったことについてもありのままだに記録されています。例えば、良い王でも良くないことをしたことがありました。ダビデ王がそうでした。エホバは、「私に仕えたダビデ[は]私から見て正しいことだけを行って、心を尽くして私に従った」と言いました。（王一 14:8 そしてダビデ家から王国を引き裂いて取り上げ、あなたに与えたが、あなたは私に仕えたダビデのようにはならなかった。彼は私のおきてを守り、私から見て正しいことだけを行って、心を尽くして私に従った）でも、ダビデは既婚の女性と性的不道徳を犯し、女性の夫を戦いで死なせるように仕向けたことがありました。（サム二 11:4 ダビデは使者たちにバテ・シバを連れてこさせた。こうして彼女はダビデの所に来て、ダビデは彼女と寝た。（彼女が汚れ(c\*月経の汚れのことかもしれない)から自分を清めている期間に起きたことだった。）その後、彼女は家に帰った、14, 15 朝になると、ダビデはヨアブに手紙を書き、ウリヤに託した。15 ダビデは手紙にこう書いた。「ウリヤを戦いが最も激しい前線に置きなさい。そして彼を残して退却し、彼が討たれて死ぬようにしなさい」）

2 一方、エホバに忠実でなかった王たちも良いことをしたことがありました。例えばレハベアムは、エホバの目から見て「悪いことを行」いました。（代二 12:14 レハベアムは悪いことを行った。エホバの導きを求めることを心に決めていなかったからである）でも、王国が分裂して 10 部族が独立する時に与えられた神からの命令には従いました。また、町の防備を固めて人々のためになることをしました。（王一 12:21-24 ソロモンの子レハベアムはエルサレムに着くと、直ちにユダ族全体とベニヤミン族の中から訓練された戦士 18 万人を集めた。王権を取り戻すため、イスラエルの民と戦おうとしたのである。22 すると、真の神に仕える人シェマヤに真の神が言った。23 「ソロモンの子であるユダの王レハベアム、ユダ族全体、ベニヤミン、そのほかの民にこう言いなさい。24 『エホバはこう言っている。「行ってはならない。あなたたちの兄弟であるイスラエル人と戦ってはならない。おのおの自分の家に帰りなさい。このようなことが起こるようにしたのは私だからである」』」。彼らはエホバの言葉に従い、エホバから言われた通り、家に帰った。代二 11:5-12 レハベアムはエルサレムに住み、防備された町をユダに築いた。6 次の町を築いた(\*の防備を固めた)のである。ベツレヘム、エタム、テコア、7 ベト・ツル、ソコ、アドラム、8 ガト、マレシャ、ジフ、9 アドライム、ラキシユ、アゼカ、10 ツオルア、アヤロン、ヘブロン。これらはユダとベニヤミンにある防備された町だった。11 レハベアムは防備された場所を補強して、そこに指揮官を配置し、食料と油とぶどう酒を供給した。12 また、各町に大盾と小やりを供給し、町々を大いに強化した。こうして、ユダとベニヤミンはレハベアムのものであり続けた）

3. どんな疑問が湧きますか。この記事ではどんな点を考えますか。

3 ここで次のような疑問が湧きます。とても大切な点です。エホバは、良いことも悪いこともしたイスラエルの王がご自分に忠実かどうかをどんな基準で判断したのでしょうか。その答えを知るなら、エホバが私たちにどんなことを望んでいるかを理解する助けになります。この記事では、エホバがイスラエルの王たちのどんな点に注目していたかを考えます。①心の全てがエホバに向いていたか、②罪を心から悔い改めていたか、③真の崇拝をしっかりと支持していたかという3つの点です。

## 心の全てがエホバに向いていたか

4. エホバに忠実に仕えた王とそうしなかった王にはどんな違いがありましたか。

4 心を尽くしてエホバを崇拝した王たちはエホバに喜ばれました。\*語句の説明: 聖書で「心」という言葉は、人の内面全体を指して使われることがよくあります。それには、願望、考え、気質、態度、素質、動機、目標が含まれています。良い王だったエホシャファトは「心を尽くしてエホバに仕え」ました。(代二 22:9) それからエヒウはアハジヤを捜した。エヒウの部下たちはサマリアに隠れていたアハジヤを捕らえ、エヒウのもとに連れてきた。そうして彼らはアハジヤを殺した。「彼は心を尽くしてエホバに仕えたエホシャファトの孫です」と言い、葬った。アハジヤの家族には王国を治める力を持つ人は一人もいなかった) また、ヨシヤについては聖書にこうあります。「ヨシヤのように.....心を尽くし[て]エホバのもとに戻ろうとした王は後にも先にもいなかった」。(王二 23:25) ヨシヤのように、モーセの律法全てに従って、心を尽くし、力を尽くし、自分の全てを尽くして、エホバのもとに戻ろうとした王は後にも先にもいなかった) ソロモンについてはどうでしょうか。後に悪いことをするようになった「ソロモンの心は.....全てがエホバ神に向いているわけでは」ありませんでした。(王一 11:4) ソロモンが年老いた時に、妻たちはソロモンの心をほかの神々に向けさせた。ソロモンの心は、父ダビデの心とは違い、全てがエホバ神に向いているわけではなかった) 忠実でなかった王アビヤムについても、「彼の心は.....全てがエホバ神に向いているわけではなかった」と書かれています。(王一 15:3) アビヤムは以前に父が犯したのと同じ罪を犯し、彼の心は父祖ダビデの心とは違い、全てがエホバ神に向いているわけではなかった)

5. 心を尽くしてエホバに仕えるとはどういう意味ですか。

5 では、エホバに心を尽くして仕えるとはどういう意味でしょうか。心を尽くして仕える人は、形だけの崇拝で済ませるようなことはしません。エホバを深く敬って愛する気持ちからエホバに仕えます。そして生きている限りそうします。

6. どうすれば心を尽くしてエホバを愛することができますか。(格言 4:23。マタイ 5:29, 30)

6 どうすれば、エホバに忠実に仕えた王たちのように心を尽くしてエホバを愛することができのでしょうか。悪い影響を与えるものを避けることが必要です。例えば、息抜きをする時に不健全なものを見たり聞いたりするなら、心がエホバからそらされることがあります。良くない交友や、お金や物を愛する考え方にも注意が必要です。何かのせいでエホバへの愛が少しでも弱まっていることに気付いたなら、その影響を取り除くためにすぐに行動しましょう。(格言 4:23) ほかの何よりも、あなたの心を守れ。命は心に懸かって(\*源を発しているからである、マタイ 5:29, 30) そこで、もし右目があなたに罪を犯させているなら、えぐり出して捨て去りなさい。体の一部を失う方が、全身をゲヘナに投げ込まれ

るよりは、よいのです。30 また、もし右手があなたに罪を犯させているなら、切り離して捨て去りなさい。体の一部を失う方が、全身がゲヘナに落ちるよりは、よいのですを読む。)

7. 悪い影響を避けることが大切なはどうしてですか。

7 心がほかのものに傾いてしまうことがないようにしましょう。気を付けていないと、クリスチャンの活動をたくさん行っていれば悪い影響を受けることはない、と考えるようになってしまうかもしれません。こんな場面をイメージしてみてください。とても寒くて風の強い日に外にいたとします。家に帰るとすぐに暖房をつけます。でも、ドアを開けたままにしておくならどうでしょうか。冷たい空気が入ってきて、家の中は暖まりません。同じように、聖書の教えを学ぶだけではエホバとの温かい関係を保つことはできません。世の中には、冷たい「空気」のような、神を敬わない態度が広まっています。それで、良くない影響が入り込んで心がエホバからそれてしまうことがないように、いわばドアを閉める必要があります。(エフェ 2:2 皆さんは以前、今の世の体制(\*流れ)に従って歩んでいました。人々に影響を及ぼしている空気の支配者に従って歩んでいたのです。その空気がつまり精神は、不従順な人たちに行き渡っています)

## 罪を心から悔い改めていたか

8-9. ダビデとヒゼキヤは戒めを受けた時にどのように反応しましたか。(挿絵を参照。)

8 先ほど考えたように、ダビデ王は重大な罪を犯しました。でも預言者ナタンからその罪について指摘された時、謙遜に悔い改めしました。(サム二 12:13 ダビデはナタンに言った。「私はエホバに対して罪を犯しました」。ナタンはダビデに言った。「エホバはあなたの罪をお許しになります。あなたは死ぬことはありません) 詩編 51 編の表現を見ると、心から悔い改めていたことが分かります。ナタンの目をごまかしたり罰を免れたりするために、反省したふりをしていたわけではありませんでした。(詩 51:3, 4 私は自分の違反をよく知っています。私の罪はいつも私の前にあります(\*頭から離れません)。4 あなたに、ほかでもなくあなたに対して(d\*あなただけに)罪を犯しました。あなたから見て悪いことを行いました。それで、あなたが話す事は正しく、あなたの裁きはもっともです、17 神に喜ばれる犠牲は、悔いる気持ち。後悔し、打ちのめされた心を、神よ、あなたは退け(\*見下げ)ません、表題指揮者へ。ダビデの歌。ダビデがバテ・シバと関係を持った後、預言者ナタンがダビデのもとに来た時)

9 ヒゼキヤもエホバに対して罪を犯しました。聖書にはこう記録されています。「ヒゼキヤは心が傲慢になり、.....神は彼とユダとエルサレムに対して憤った」。(代二 32:25 しかしヒゼキヤは心が傲慢になり、受けた恩恵に感謝しなかった。そのため、神は彼とユダとエルサレムに対して憤った) ヒゼキヤの心が高慢になったのはどうしてでしょうか。もしかすると、たくさんお金や物を持っていることや、アッシリア軍に勝利したことや、病気から奇跡的に癒やされたことで優越感を持つようになってしまったのかもしれません。ヒゼキヤ王がバビロニア人に富を見せびらかしたのも、誇りの気持ちが原因だったのかもしれません。結果として預言者イザヤから戒めを受けることになりました。(王二 20:12-18 その頃、バビロンの王、バラダンの子ベロダク・バラダンがヒゼキヤに手紙と贈り物を贈った。ヒゼキヤが病気だと聞いていたからだった。13 ヒゼキヤは使者たちを歓迎し(\*の言葉に耳を傾け)、宝物庫の中を全部見せた。銀や金も、パルサム油や他の高価な油も、武器も、宝物庫にあった物を残らず見せた。自分の家(\*宮殿)の中、全領土の中で、ヒゼキヤが彼らに見せなかった物一つもなかった。14 その後、預言者イザヤがヒゼキヤ王の所に入ってきて尋ねた。「あの人たちは何と言いましたか。どこから来たのですか」。ヒゼキヤは、「遠い国、バビロンからやって来ました」と言った。15 イザヤは尋ねた。「あなたの家(\*宮殿)で彼らに何を見せたのですか



」。ヒゼキヤは答えた。「私の家(\*宮殿)にある物全てを見せました。私の宝物庫の中で見せなかった物は一つもありません」。16 イザヤはヒゼキヤに言った。「エホバの言葉を聞きなさい。17 エホバはこう言っています。『あなたの家(\*宮殿)にある物全て、あなたの父祖たちがこれまで蓄えてきた物全てが、残らずバビロンに持っていかれる日が来る。18 生まれてくるあなたの子孫の中には、連れていかれてバビロンの王の宮殿で廷臣にされる者もいる』」でも、**ダビデと同じように**にヒゼキヤは**謙遜に悔い改め**ました。(代二 32:26 とはいえ、ヒゼキヤは心の傲慢さを改めて謙遜になり、エルサレムの住民もそうしたので、ヒゼキヤの時代中、エホバの憤りは生じなかった)**最終的には、エホバから見て「正しいことを行い続けた」忠実な王として記録**されています。(王二 18:3 ヒゼキヤは父祖ダビデと同じように、エホバから見て正しいことを行い続けた)



ダビデ王とヒゼキヤ王が、罪を指摘されて謙遜に悔い改めている。(8-9 節を参照。)

10. アマジヤ王は正された時にどう反応しましたか。

10 **対照的に、ユダのアマジヤ王は正しいことを行いました**が、「**心を尽くしてはい**」**ません**でした。(代二 25:2 アマジヤは、心を尽くしてはいなかったものの、エホバから見て正しいことを行い続けた) どんなことをしてしまったのでしょうか。アマジヤは**エホバの助け**によって**エドム人を打ち負**かした**後、エドムの神々にひれ伏**しました。**\*異教の国の王たちの間では、征服した民の神々を崇拝する習慣があったようです。**そのことをエホバの**預言者に指摘**されましたが、**全く耳を貸さず**に**追い払**ってしまいました。(代二 25:14-16 アマジヤはエドム人を討って帰ってきた後、持ち帰ったセイルの人たちの神々を自分の神々として立て、その前でひれ伏し、犠牲の煙を立ち上らせるようになった。15 それでエホバはアマジヤに対して非常に怒り、預言者を遣わした。預言者はアマジヤに言った。「自分の民をあなたの手から救えなかった神々に、あなたはなぜ従うのですか」。16 預言者が王に話していると、王は言った。「私たちはあなたを王の顧問官にでもしたのか。もうやめなさい！これ以上話すなら、処刑する」。そこで預言者はやめたが、最後にこう言った。「神はあなたに破滅をもたらすことをお決めになったことが私には分かります。あなたがこのようなことをし、私の助言を聞かなかったからです」)

11. **コリント第二 7 章 9, 11 節**によると、エホバから許してもらうためには何をする必要がありますか。(写真も参照。)

11 **どんなことを学べる**でしょうか。私たちは**罪を心から悔い改め**、**同じことを繰り返さない**よう**できる限りのことを**する必要があります。もし、**ささいに思えるような点**について**会衆の長老たちから助言を受けたなら**どうでしょうか。自分は**エホバから愛されていない**とか、**長老たちから嫌われている**とは**考えない**でください。**イスラエルの良い王たち**であつても、**助言や戒めを受ける**ことがありました。(へブ 12:6 エホバ(\*)は愛する人を矯正するからだ。ご自分が子として迎え入れる人を皆むち打つ(\*罰する)のである) 間違いを**正された時**、(1) **謙遜に受け入れ**、(2) **必要な調整を行い**、(3) **心を込めてエホバへの奉仕を続**けてください。」犯した**罪を反省して悔い改め**るなら、エ

ホバは私たちのことを許してください。(コリント第二 7:9 今は喜んでいます。皆さんがただ悲しんだのではなく、悲しんで悔い改めたからです。皆さんは神の意志に沿って悲しんだので、私たちがしたことは皆さんにとって害にはなりませんでしたが、11 皆さんが神の意志に沿って悲しんだので、皆さんの中にひたむきな真剣さが生み出されました。汚れを除き、憤りや畏れ、真剣な願い、熱意を抱き、悪を正しました！皆さんは例の件に関して清い(\*潔白である)ことをあらゆる点で証明しましたを読む。)



間違いを正された時、(1) 謙遜に受け入れ、(2) 必要な調整を行い、(3) 心を込めてエホバへの奉仕を続けることは大切。(11 節を参照。) \*写真や挿絵: 若い長老が、兄弟の飲酒の習慣について心配していると伝えている。兄弟は謙遜に助言を受け入れ、必要な調整を行い、忠実に奉仕を続けている。

## 真の崇拝をしっかりと支持していたか

12. 忠実な王たちはどんな点で際立っていましたか。

12 エホバは真の崇拝をしっかりと支持した王たちを忠実な人と見ました。そうした王たちは、国民にも同じように真の崇拝を支持するよう促しました。もちろんこれまで考えた通り欠点もありましたが、エホバだけに心を向けていました。さらに、国から偶像崇拝を除き去るために懸命に闘いました。\*アサ王は大きな罪を犯しました。(代二 16:7, 10) でも、聖書の中では良い王として記録されています。間違いを正された時、最初はそれを退けてしまいましたが、後に悔い改めた可能性があります。アサ王は間違いを犯しましたが、全体的に見ると良いところがたくさんありました。何よりも、アサはエホバだけを崇拝し、王国から偶像崇拝を取り除くために努力しました。(王一 15:11-13。代二 14:2-5)

13. エホバがアハブ王を忠実でないと見なしたのはどうしてですか。

13 エホバから忠実でないと見なされた王たちについてはどうでしょうか。もちろん、その王たちの行ったこと全てが悪かったわけではありません。例えば邪悪な王アハブでさえ、いくらか謙遜になり、ナボテの殺害に関わったことを後悔しました。(王一 21:27-29 アハブはこの言葉を聞くとすぐ、自分の衣服を引き裂き、粗布をまとった。断食を始め、粗布を身に着けて横になり、ぼうぜんと歩いた。28 エホバはティシュベの人エリヤにこう言った。29 「アハブが私の前で謙遜になったのを見たか。彼が私の前で謙遜になったので、彼が生きている間には災いをもたらさない。彼の子の時代に、彼の一家に災いをもたらす」) また、幾つかの町を築き、イスラエルのために戦って勝利しました。(王一 20:21 一方、イスラエルの王は出て行って馬と兵車を次々と討ち、シリア人を大敗させた。29 両軍は陣営を張ったまま7日間向かい合った。そして7日目に戦闘が始まった。イスラエルの民は1日のうちにシリア人の歩兵 10 万人を討った。22:39 アハブについてのほかの記録、行ったさまざまなこと、建てた象牙の家(\*宮殿)、築いた町々のことは、イスラエルの王の時代の歴史書に記されている) でもアハブは、よく知られている通り、妻の影響を受けて間違った崇拝を広め

ました。この点についてアハブが悔い改めることはありませんでした。（王一 21:25, 26 妻イゼベルにけしかけられたアハブは、エホバから見て悪いことを行っただけ。彼ほど悪いことにふけた人はいない。26 アハブは、私エホバがイスラエル人の前から追い払ったアモリ人のように、汚らしい偶像(c\*へ語で「ふん」を意味する言葉と関連があると考えられる、嫌悪を表す表現)に頼り、非常に忌まわしいことを行っただけ）

14. (ア) エホバがレハベアムを忠実でない王と見たのはどうしてですか。(イ) 忠実でない王たちの統治にはどんな特徴がありましたか。

14 忠実でなかったレハベアム王のことも考えてみましょう。この記事で初めに触れた通り、レハベアムは統治期間中いろいろと良いことをしました。でも、王権が揺るがないものになると間違っただけの崇拝を行うようになり、エホバの律法を捨てました。（代二 12:1 王権が揺るがないものとなり、力が強まると、レハベアムはエホバの律法を捨てた。イスラエル全体も彼と同じようにした）その後、真の崇拝を行うことも間違っただけの崇拝を行うこともあり、どっち付かずの態度を取りました。（王一 14:21-24 ユダでは、ソロモンの子レハベアムが王になっていた。レハベアムは41歳で王になり、エホバがご自分の名を付すためにイスラエルの全部族の領地から選んだ都市エルサレムで17年治めた。レハベアムの母はナアマといい、アンモン人だった。22 ユダは、エホバから見て悪いことを行っただけ。罪を犯し、父祖たちがした以上に神を怒らせた。23 どの高い丘の上や生い茂った木の下にも、高い場所や聖柱(\*)や聖木を築いていった。24 ユダには神殿男娼さえいた。民は、エホバがイスラエル人の前から追い払った国々の忌まわしい事柄をことごとく行っただけである）真の崇拝からそれた王はレハベアムやアハブだけではありません。実際、忠実でなかった王たちの大多数が何らかの仕方で間違っただけの崇拝を支持しました。確かに、良い王か悪い王かをエホバが判断する上で、しっかり真の崇拝を支持したかどうかは大切な要素でした。

15. 真の崇拝をしっかり支持することをエホバが重要と見なしているのはどうしてですか。

15 崇拝に関係することをエホバがそれほど重要と見なしていたのはどうしてでしょうか。まず、①王たちには正しい崇拝を行うよう神の民を導く責任がありました。そして、間違っただけの崇拝は必ず重大な罪や不公正などにつながります。（ホセ 4:1, 2 イスラエルの民よ、エホバの言葉を聞け。エホバには、この土地の住民に対する訴訟がある。この土地には、真実も、揺るぎない愛も、神についての知識もないからだ。2 偽りの誓い、うそ、殺人、盗み、姦淫がはびこり、流血行為が相次いでいる）また、②イスラエルの王たちも国民もエホバに献身していました。それで、イスラエル国民が間違っただけの崇拝に関わることは、いわば姦淫を犯すようなものでした。（エレ 3:8, 9 私はそれを見て、姦淫をした不忠実なイスラエルに離婚証書を渡して去らせた。それでも、不誠実な姉妹ユダは恐れず、自分も行なって売春をした。9 彼女は売春を軽く考え、土地を汚して石や木と姦淫をし続けた）姦淫をするなら、配偶者を最も深く傷つけることになります。同じように、エホバに献身した人が間違っただけの崇拝に関わるなら、エホバに対して罪を犯すことになり、エホバを本当に深く悲しませてしまいます。\*注目できる点として、モーセの律法の最初の2つのおきては、エホバ以外のどんなものも崇拝してはならないという内容でした。（申 4:23, 24 エホバ神が皆さんと結んだ契約を忘れないように気を付けなさい。また彫刻像を、エホバ神が禁じたどんなものの形も、作ってはなりません。24 あなたの神エホバは焼き尽くす火であり、全くの専心を要求する神だからです）

16. エホバから見て正しい人と悪い人のはっきりした違いは何ですか。

16 どんなことを学べるのでしょうか。私たちは間違っただけの崇拝を避けることを決意していなければなりません。それだけでなく、真の崇拝をしっかり支持し、それに励む必要もあります。預言者マ



ラキは、エホバから見て良い人と悪い人の違いについて、次のようにはっきりと書きました。「**あなたたちは再び、正しい人と悪い人、神に仕える人と仕えない人の違いを目にすることになる**」。(マラ 3:18 あなたたちは再び、正しい人と悪い人、神に仕える人と仕えない人の違いを目にすることになる)それで、**どんな理由であつても神に仕えるのをやめることがないように**しましょう。たとえ、**間違いをする不完全な自分に落ち込むとしても、決して諦めない**でください。**エホバに仕えるのをやめるなら、それは重大な罪**になってしまいます。

17. 心を尽くしてエホバに仕えるために、結婚相手を注意深く選ぶ必要があるのはどうしてですか。

17 **マラキの言葉は、結婚を考えている独身の人**が**自分にふさわしい相手を選ぶ**上でも**助け**になります。①**ある人に魅力的なところ**があるとしても、**エホバに仕えていない**なら、今その人は**エホバから見て正しい人**といえるでしょう**か**。(コリ二 6:14 **クリスチャンではない人と結び付いて(\*くびきで結ばれて)はなりません。それは不釣り合いな関係です。正しいことと不法にいったいどんな関わりがあるでしょう**か。光と闇に**どんな共通点**があるでしょう**か**) ②**結婚した場合**、その人は**エホバとの絆を強めるよう助**けてくれるでしょう**か**。考えてみてください。**ソロモン王の妻たち**にも**良いところ**が**いくらかあったかも**しれません。**でも**、異教の神を崇拜し、エホバに仕えていなかった妻たちは、**徐々にソロモンの心**を**ほかの神々に向けさせ**ました。(王一 11:1 **ソロモン王は、ファラオの娘のほかにも多くの外国人の女性を愛した。モアブ人、アンモン人、エドム人、シドン人、ヘト人の女性である**、4 **ソロモンが年老いた時に、妻たちはソロモンの心**を**ほかの神々に向けさせた。ソロモンの心は、父ダビデの心とは違い、全てがエホバ神に向いているわけではなかった**)

18. 親は子供たちにどんなことを教える必要がありますか。

18 **親の皆さん**、聖書に収められている**王たちに関する記録**を**子供と一緒に学**び、①**子供たちが熱い心でエホバを崇拜できるように教**えてください。②**エホバが****良い王と見るか悪い王と見るかは**、その王が**正しい崇拜を推し進めたかどうか**に大きく懸かっていたということを**理解**できるように**助**けましょう。③**聖書を学**ぶこと、**集会**や**伝道**に参加することなど、**エホバとの絆を強める活動**を**何よりも優先**させてください。」そのようにする**大切さ**を**言葉や手本によって教**えましょう。(マタ 6:33 **ですから、王国と神から見て正しいこととをいつも第一にきなさい。そうすれば、こうしたほかのもの全ても、あなたたちに与えられます**) **そうしないなら**、子供たちは「**自分がエホバの証人**なのは**家の宗教だから**」と考えるようになる**かも**しれません。そして、**エホバへの崇拜**を**二の次**にしたり**全くやめてしまったり**することさえある**かも**しれません。

19. エホバに仕えることをやめてしまった場合、エホバとの絆を取り戻すことはできますか。(「[あなたもエホバのもとに帰ることができます](#)」の囲みも参照。)

19 **エホバに仕えることをやめてしまった人**は、もう**二度とエホバとの絆を取り戻すことができない**のでしょうか。いいえ。**悔い改めてもう一度エホバのもとに帰**ることは**可能**です。でも、そのためには**長老たちの助けを謙遜に受け入れなければなりません**。(ヤコ 5:14 **病氣の人がいますか。その人は会衆(\*)の長老たちを呼んでください。そして、自分のために祈ってもらい、エホバ(\*)の名によって油を塗ってもらってください**) **再びエホバの友**になるために**どんな努力を払う必要があるとしても**、**そうするだけの価値がある**ということを**忘れない**でください。

**あなたもエホバのもとに帰ることができます**

「エホバから見て悪いことを大規模に行つた」 マナセの例を考えましょう。マナセは「無実の人の血を大量に流し」、いろいろな心霊術に関わり、自分の子を偽の神々に犠牲として捧げることでしました。（王二 21:6 自分の子を火で焼き、魔術を行い、吉凶を判断し、霊媒師や占い師を任命した。エホバから見て悪いことを大規模に行つて、神を怒らせた、16 マナセの罪は、ユダに罪を犯させてエホバから見て悪いことを行わせるだけにとどまらなかった。無実の人の血を大量に流して、その血でエルサレムの端から端までを満たした）そして、「エホバが滅ぼし尽くした国々よりも悪いことを」ユダの人々に行わせました。（王二 21:9 そう言われていたのに民は従わず、マナセは民を惑わし続け、イスラエル人の前からエホバが滅ぼし尽くした国々よりも悪いことを行わせた。代二 33:1-6 マナセは12歳で王になり、エルサレムで55年治めた。2 マナセはエホバから見て悪いことを行い、イスラエルの民の前からエホバが追い払った国々の忌まわしい行いをまねた。3 父ヒゼキヤが取り壊した高い場所を再び築き、パアルのために祭壇を設け、聖木を作った。また、天の全ての星(d\*天の全軍)を崇拝してひれ伏した。4 エホバがかつて「私の名は永遠にエルサレムにある」と言ったそのエホバの家の中にも祭壇を作った。5 エホバの家の2つの庭に、天の全ての星(d\*天の全軍)のために祭壇を作った。6 ヒンノムの子の谷で自分の子たちを火で焼き(d\*に火の中を通らせ)、魔術を行い、占いをし、呪術を行い、霊媒師や占い師を任命した。エホバから見て悪いことを大規模に行つて、神を怒らせた) でも、捕らえられてバビロンに連れていかれた時、悔い改めました。それまで長い期間にわたって重大な罪を繰り返してきたマナセは、許しを求めてただ一度祈っただけではありませんでした。苦難の中、「謙遜にな」って「祈り続け」ました。その結果どうなったのでしょうか。エホバはマナセの祈りを聞いて、「その懇願に心を動かされ」ました。そしてマナセを許し、エルサレムに帰らせ、王位に復帰させました。（代二 33:12, 13 マナセは苦難の中、エホバ神に恵みを求め、父祖たちの神の前でとても謙遜になった。13 彼が神に祈り続けたので、神はその懇願に心を動かされ、恵みを求める願いを聞き、彼をエルサレムでの王位に復帰させた。こうしてマナセはエホバこそ真の神であると悟った）

真の崇拝をやめた人が心から誠実に悔い改める時、エホバは今も同じようにしてくださいます。どうしてそう確信できるのでしょうか。イザヤ 55 章 7 節悪い行いをやめ、有害な考えを捨てよ。憐れんでくださるエホバのもとに帰れ。私たちの神のもとに帰れ。神は寛大に(\*惜しみなく)許してくださるにはこうあります。「悪い行いをやめ、有害な考えを捨てよ。憐れんでくださるエホバのもとに帰れ。私たちの神のもとに帰れ。神は寛大に許してくださる」。それで、ためらわずにエホバのもとに帰ってきてください。できることから少しずつ行っていきましょう。

20. エホバに忠実に仕えた王たちに倣うなら、エホバからどう見てもらえますか。

20 イスラエルの王たちからどんなことを学べたでしょうか。大切なのは、忠実な王たちのようにエホバだけに心を向けて仕え続けることです。自分の間違いから学び、心から悔い改め、必要な調整をしましょう。これからも、唯一の真の神であるエホバへの崇拝をしっかり支持してください。エホバにしっかり付いて離れないなら、あなたもエホバから見て正しい人になれます。

どうすれば...

1. 心を尽くしてエホバに仕え続けることができますか。

・S05 エホバに心を尽くして仕える人は、形だけの崇拝で済ませるようなことはせず、エホバを深く敬って愛する気持ちから生きている限りエホバに仕え続ける。

・S06 心を尽くしてエホバを愛することができるようになるためには、悪い影響を与えるものを避けることが必要で、何かのせいでエホバへの愛が少しでも弱まっていることに気付いたなら、その影響を取り除くためにすぐに行動する必要がある。



## 2. 罪を心から悔い改めていることを表せますか。

- ・S08 **ダビデ**王は重大な罪を犯したが、預言者ナタンからその罪について指摘された時、**謙遜に心から悔い改めた**。ナタンの目をごまかしたり罰を免れたりするために、反省したふりをしていた訳ではない。
- ・S09 **ヒゼキヤ**も心が傲慢になり、バビロニア人に富を見せびらかしたが、結果として預言者イザヤから戒めを受けることになった。でも、**ダビデと同様ヒゼキヤも謙遜に悔い改め**、最終的には、エホバから見て「**正しいことを行い続けた**」忠実な王として記録された。
- ・S10 対照的に、ユダの**アマジヤ**王は正しいことを行いましたが、心を尽くしていなかった。例えばエホバの助けによってエドム人を打ち負かした後、エドムの神々にひれ伏したが、そのことをエホバの預言者に指摘された時、全く耳を貸さずに追い払ってしまった。
- ・S11 私たちは**罪を心から悔い改め**、同じことを**繰り返さないようできる限りのこと**をする必要がある。**会衆の長老たちから間違いを正された時**、(1) **謙遜に受け入れ**、(2) **必要な調整**を行い、(3) **心を込めてエホバへの奉仕を続ける**。」犯した罪を**反省して悔い改める**なら、エホバは私たちのことを許してください。

## 3. 真の崇拝をしっかりと支持することができますか。

- ・S14 **良い王か悪い王かをエホバが判断**する上で、**しっかりと真の崇拝を支持したかどうかは大切な要素**だったことを覚えておく。
- ・S16 **間違った崇拝を避けることを決意**するだけでなく、**真の崇拝をしっかりと支持し、それに励む必要がある**。**どんな理由であっても神に仕えるのをやめることがないようにし**、たとえ、間違いをする**不完全な自分に落ち込むとしても、決して諦めない**。**エホバに仕えるのをやめるなら、それは重大な罪になってしまうこと忘れない**。
- ・S17 心を尽くしてエホバに仕えるために、①エホバに仕えている人で、②エホバとの絆を強めるよう助けてくれる**結婚相手を注意深く選ぶ必要がある**。

## 45 番の歌 心の黙想

△ この記事で「イスラエルの王」という表現は、エホバの民を治めた全ての王を指して使われています。それにはユダの2部族を治めた王も、イスラエルの10部族を治めた王も、12部族全てを治めた王も含まれます。

△ 語句の説明: 聖書で「心」という言葉は、人の内面全体を指して使われることがよくあります。それには、願望、考え、気質、態度、素質、動機、目標が含まれています。

△ 異教の国の王たちの間では、征服した民の神々を崇拝する習慣があったようです。

△ アサ王は大きな罪を犯しました。(代二 16:7, 10) でも、聖書の中では良い王として記録されています。間違いを正された時、最初はそれを退けてしまいましたが、後に悔い改めた可能性があります。アサ王は間違いを犯しましたが、全体的に見ると良いところがたくさんありました。何よりも、アサはエホバだけを崇拝し、王国から偶像崇拝を取り除くために努力しました。(王一 15:11-13。代二 14:2-5)

△ 注目できる点として、モーセの律法の最初2つのおきては、エホバ以外のどんなものも崇拝してはならないという内容でした。(出 20:1-6)